

平成 26 年 文京区議会 少子高齢社会対策調査特別委員会 視察報告書

○視察日程 平成 26 年 12 月 1 日（金）

○視察先 こまじいのうち（文京区本駒込 5-11-4）

○視察目的 小地域福祉活動の取組に関する調査・研究

○視察参加者

【委員】	委員長	松下純子
	副委員長	海津敦子
		國枝正人
		金子てるよし
		高山泰三
		田中としかね
		藤原美佐子
		若井宣一
		田中香澄
		山本一仁
		板倉美千代

【同行】	福祉部福祉政策課長	木幡光伸
------	-----------	------

【随行】	区議会事務局長	吉岡利行
	区議会事務局議会主査	福田洋司

こまじいのうち

1 説明者

中村 進 氏（「こまじいのうち」の地元、神明西部町会 会長）

秋元康雄 氏（「こまじいのうち」オーナー）

三縄 毅 氏（駒込地域活動センター所長）

浦田 愛 氏（文京区社会福祉協議会 駒込地区地域福祉コーディネーター）

2 開設の経緯

地域の方が、空き家になっている家を壊すのを「もったいない」と感じ、地域のご高齢の方々が「お茶のみにでも集まれる場になればよい」ということで提供してくれたのが始まり。

運営方法を検討するため、平成 25 年 5 月に実行委員会を立ち上げ、駒込地域に係る団体の方々による議論が行われた。



「こまじいのうち」玄関

3 事業内容

地域の居場所として、誰が来ても出入りが自由なオープンスペースとして平成 25 年 10 月 1 日に開設された「こまじいのうち」は、駒込地区町会連合会が主催し、駒込地域活動センター、文京区社会福祉協議会、子育て団体、近隣の大学生、ボランティア等の協力・支援を得ながら運営されている。

【平成 26 年 3 月 31 日までに行われた事業】

- 高齢者向けプログラム・・・脳トレ健康麻雀、囲碁入門教室
- 子育て最中のお母さん向けプログラム・・・ゆる育カフェ（育児何でも相談）
- 青少年向けプログラム・・・学習支援教室（てらまっち）
- 世代を超えた交流事業・・・カフェこま（まちかど談話室）
- ふれあいサロン講座・・・文京区にちなんだかるたづくり、布ぞうりづくり、など
- 「食・人」ホットサロン（栄養士による栄養指導）

4 事業の効果

(1) 地域の人材バンク

地域の中で、いろいろな特技を持った方や、経験を積んだ方が、「こまじいのうち」が一つのきっかけになって顕在化してきている。

(2) 参加者と支援者がボーダレスな関係

「こまじいのうち」は、一方的に支援される場ではなく、参加者として来た人が、その後ボランティアとして活動するケースも増えている。

(3) 新たなテーマ別グループの立ち上げ

子育て世代のお母さん方が、「カフェこま」や「ゆる育カフェ」の参加により交流を深める中で、新たな会を独自に立ち上げ、2団体が活動を始めている。

(4) 社会的に孤立していた人が出会い、つながる場

独居の高齢者や精神疾患を抱えている方などがコーディネーターを通じてつながり、中には、ボランティアとして、役割を持って参加される方もいる。

(5) 地域のつながりの再構築へ

ボランティア等からは、「交流が広がり、地域の中で声を掛け合うことが増えてきた」、「助け合いができる地域を目指していきたい」などの声がある。

5 課題

「こまじいのうち」は、都の補助金、駒込地区 12 町会の分担金、参加料及び寄附金により運営されているが、固定資産税等の負担は、理解あるオーナーのご厚意による。固定費の補助や税の減免措置が講じられなければ、なかなか第二・第三の「こまじいのうち」を提供してくれる方が現れないと思われる。

また、今後も安定的に運営していくためには、地域の中から、中心になって運営していける人材を確保する必要がある。



こまじいの家

~12月のプログラム~

火曜～金曜は10時～15時
までオープンしています。
(出入り自由)

月	火	水	木	金	土	日
2	カフェこま 【おぼろりを作ろう (材料費別)】 10:00-15:00 (¥100)	カフェこま 10:00-13:00 (¥100) 園上し健康講座 13:00-16:00 (¥300)	カフェこま 【中級パッチワーク (材料費別)】 10:00-12:00 (¥100) 【2人ペア参加希望】 13:00-15:00 (¥200)	カフェこま 10:00-15:00 13:00-15:00 ゆるぎカフェ (¥200)	こまじいの家 から大倉 10:00-12:00 (¥300) 貸切(てらまっち) 13:00-17:00	
9	カフェこま 10:00-15:00 利用料¥100	園遊カフェ 10:00-15:00 (園遊 ¥300) (カフェ ¥100)	カフェこま 10:00-15:00 利用料¥100	カフェこま 10:00-13:00 (¥100) 園遊茶屋 13:00-15:00 (¥100) こどもあそび場 14:00-17:00	貸切(てらまっち) 13:00-17:00	
16	カフェこま 【おぼろりを作ろう】 10:00-15:00 (¥100)	カフェこま 10:00-13:00 (¥100) 園上し健康講座 13:00-16:00 (¥300)	カフェこま 10:00-13:00 (¥100) こまじいの家 12:00-14:00 (¥200)	カフェこま 10:00-15:00 利用料¥100	貸切(てらまっち) 13:00-17:00	
23	祝日のため 休館	園遊カフェ 10:00-15:00 (園遊 ¥300) (カフェ ¥100)	カフェこま 10:00-15:00 利用料¥100	休み	休み	
30						
31						

年末年始休業 12/26～1/5

◆こまじいバザー開催します!!

1月17日(土)に恒例のこまじいバザーを開催します。
未使用品の石鹸、洗剤、タオル、シューズなど、バザーの品物を募集
していますので、こまじいが開いている時に直接お持ちください。
問合せ先: 近藤 070-6998-5114



Facebook ページ: 『こまじいのうち』
Email: komajinoichi@gmail.com

主催: 駒込地区町会連合会
問合せ:
 ◇こまじいのうち 近藤 070-6998-5114
 秋元 070-6999-5114
 ◇寄付について 駒込地域活動センター(三橋) 3824-5801
 ◇ボランティアについて 文京区社会福祉協議会(駒込) 3812-3114

「平成26年度東京都地域の活力再生事業助成」対象事業

平成26年12月のプログラム



視察成果のまとめ

松 下 純 子

小地域福祉活動の取組と地域福祉コーディネーターの役割等について

「こまじいのうち」は、近隣の方が地域に開放してくださっている一軒家の地域拠点で、子育て世代や高齢者、学校帰りの子供が集まる等、様々な活用がされている有意義な空間です。文京区だけでなく広く有名になり、全国で講演依頼を受けているとのこと。駒込地域の地域福祉コーディネーター浦田愛氏（文京区社会福祉協議会）は、精力的に地域に溶け込み、支援活動をされ、高齢者や子育て世代の不安や地域のごみ問題などの問題を解決されています。

浦田氏の話で一番印象に残っていることは、「地域福祉コーディネーターは今後各地域包括支援センターに1人ずつ計4人配置される予定だが人口20万人に対して、5万人に対し1人のコーディネーター配置は大変厳しい。せめて2万5千人に1人の配置が望ましい」と正に現場の声を言われていたことです。

「こまじいのうち」のような拠点が増えることと様々な地域課題がある中で地域福祉コーディネーターの適正配置の議論を深める必要性を感じました。

海 津 敦 子

「中学生が学校帰りに立ち寄って、おやつを食べていくんですよ」と町会長さんが教えてくれました。「こまじいのうち」には赤ちゃんから高齢者まで、また、台湾やアメリカ、フランス、ドイツなどからの外国人も立ち寄るなどです。多様な人たちが世代を超えておしゃべりをして一緒に笑い、愚痴もこぼしあえる居場所「こまじいのうち」は、今、全国的にも注目され、視察が絶えないとのこと、納得がいきます。

誰もが気軽に集い、民生委員や社会福祉協議会も立ち寄り、何かあれば専門家へつなぐこともできる居場所づくりは区の施策として不可欠なだけに、「こまじいのうち」の運営に補助金を出してノウハウを提供してもらい検討が重要と考えます。協働協治です。各地域に「居場所」を速やかにつくり、孤独を感じる人をなくすことが喫緊の課題。寂しさを感じることをないつながりを生み出す仕掛けをつくるのは区の責務です。

地域につながりがあってこそ、安心して暮らしていかれることが可能になります。

國 枝 正 人

文京区本駒込に誕生した「こまじいのうち」は、その地に長く住まい、地域の顔である人物から、その個人宅を提供していただき、地域活性、とりわけ高齢者から若年層の世代間交流を目的に運営されています。時間帯によって利用する年齢層は異なりますが、みんながお互いを尊重し、成長する機会を得ています。

駒込地域の地域福祉コーディネーター、文京区社会福祉協議会勤務の浦田愛さんのきめ細かい対応は、誰でも真似のできるものではありません。地域を熟知し、何が問題で何が必要かを日々模索し、実践を繰り返しています。正解が見えにくい高齢者問題や地域コミュニティですが、経験を繰り返すことで、その結果を積み上げることが大切です。

こうした取組は、都心型の地域交流の一例として、注目されるのも当然であると感じました。

金 子 てるよし

「こまじいのうち」は、空き家の活用で、町会やボランティアが連携し「顔のみえる地域社会」の一端を再生してゆく「居場所」となっています。中学生、子育て世代、高齢者など各年齢層に対応した各種の取組は、子育て世代と高齢者世代を結ぶ「居場所」が、今後の地域福祉の拡充を図る上で、大事な役割を果たしていると実感することができました。

その背景には、住民のみなさんの「居場所」づくりの努力があり、社会福祉協議会のコーディネーター役としての役割にも多くの学ぶべき点があると感じました。駒込地域では、区の施設の廃止・集約がされる中「集会施設がなくて困っている」という声があがっているそうです。

こうした中、所有者の厚意と東京都の助成制度を活用した「居場所」づくりの取組は、区も含め、一層の支援が求められていることが明らかとなっていると感じました。

高山 泰三

地域福祉コーディネーターの浦田さん、地域活動センター所長の三縄さんを始め、実際に施設運営の中心になっている方から直接お話を伺うことができました。また、当日は休館日でもあり、実際に施設の中に入れていただきました。

事業の成功のポイントは、運営をあまり厳格に行わず、運営側と利用者側の線引きも曖昧にして、「ユルく」運営している点にあるように感じました。区役所が同様の事業を行うと、どうしても、過度の安全性、公平性を追求してしまう傾向があります。本事業は、高齢者対策、地域コミュニティ活性化という意味では非常に有用な政策であると考えます。

他地域にこの事業を拡げる際は、議会としても、過度の安全性、公平性、リスクゼロを声高に叫ぶのではなく、運営上の曖昧さを許容する姿勢を持つべきであると感じました。

田中 としかね

「こまじいのうち」の可能性について

地域社会の在り方が変成したと言われて久しい。働き盛り世代の男性も女性も、共に働きに出かけてしまい日中は地域にいないという状況の中で、子育てのために地域がまとまったりすることや、子どもたちに地域の一員としての意識を持ってもらったりすることも、難しくなっています。地域の人々が参加してきた行事を継承することすら困難な状況です。

また、子育て中の親御さんには、地域で相談のできる人を見付けられず、子育てに不安を抱えていらっしゃる方も多く、子供が生まれ育つ場としての地域が、その機能を果たしていない状況にあると言えます。こうした状況を我々は変えていかなくてはならない。次世代を育む場としての地域社会を再生することが強く求められています。「こまじいのうち」は一つのモデルケースとなると考えます。地域社会はこれまでも、そしてこれからも、子どもが生まれ育つ場であることに変わりはないのだから。

藤原美佐子

「こまじいのうち」に学ぶこと

子ども、高齢者、障害者、低所得者など、支援を必要とする人々は多重に支援が必要だったり、一方的に支援されるのではなく、支援することもあるボーダーレスな時代になっています。地域の人々が、互いにできる範囲で労働や物資を提供し合い、制度的支障をできる限り排除し、ボランティアの協力や公的援助も得て、なんとか成し遂げるしかない。目的を特化した福祉施設設置が困難な状況の中で、ボーダーがないほうが、インクルーシブに生き合うには適しています。

1月12日に豊島区で「子ども食堂サミット」が開かれ、「フリースペースえん」「要町あさやけ子ども食堂」などの話を聞き、「こまじいのうち」と共通するものを感じました。おとなも子どもも生きづらい今の時代、まったくでき自己肯定感が持てる居場所づくりが様々な課題の解決につながるだろう。

区は、新たな公共の担い手事業で、手を挙げた人の自己実現だけでなく、地道な課題抽出と解決可能性の模索で、真に必要な市民セクターへの中間支援に力を入れてほしい。

若井宣一

本駒込五丁目「こまじいのうち」を視察して

少子高齢社会対策調査特別委員会で、本駒込五丁目にできた「こまじいのうち」を視察させていただきました。この家は、持ち主である地元の方から「空き家を活用してほしい」との申出を検討し、地域での課題でもある、青少年の居場所や一人暮らし高齢者の存在、孤立しがちな子育て中のお母さんなどの問題が出され、誰もが気軽に立ち寄り、集まれる居場所づくりが提案されました。そして、駒込地域活動センター、社会福祉協議会がそれぞれの立場で協力・支援に取り組み、実行委員会が立ち上がり運営方法が検討され、オープンに至ったと伺いました。

現在行われている事業も伺い、盛況に行われているとのことでした。月平均300人が関わっていることでもわかるように、この場所が気軽に交流できる場所であることが分かりました。

まだまだ課題はあると伺いましたが、今後の更なる交流と事業の他地域での拡大を期待したいと思います。

田 中 香 澄

「こまじいのうち」を視察して

「空き家を活用してほしい」、家主の方からの申出から、駒込地区町会連合会の居場所づくりプロジェクトがスタートしました。最初から「居場所づくりをしよう！」と決めたわけではなく、地元町会や地域の方々が、膝を詰めて何度も話合いが行われた中で、「居場所」にしようと話がまとまっていきました。そのこと自体、コミュニティが成熟している地域なのだと感心しました。

話合いの中で、青少年の居場所がない、一人暮らしの高齢者が孤立している、子育て世代の交流の場があれば、などの問題が出されたことも、その暖かな地域の眼差しが光っていました。地域の息遣いがする事業が展開されていることも、根っこに地域の暖かな連帯があるということがよく理解できました。

地域ごとに違う課題を地域が見付け、解決しようとする。そのお手伝いをしてくださった地域福祉コーディネーターの存在の大きさを知るとともに、第二、第三の浦田さんの必要性を実感しました。

山 本 一 仁

地域の新たな拠点施設「こまじいのうち」の更なる発展を！

本駒込地域の新たなコミュニティ施設として誕生した「こまじいのうち」が創設1周年となりました。ここは、所有者に建物をご提供いただき、地区の駒込町会連合会が運営を行っています。子どもたちと高齢者を中心とした地域の居場所として、様々な人々が関わり、様々なボランティア団体がカリキュラム等を作って、連日大勢の人が訪れ、大きな賑わいを見せています。今では、地域というよりは、区全体のコミュニティ施設として活用されるほどになりました。

今後は、このような空き家を活用した新たな居場所が更に増えるよう、区議会としても光熱水費や固定資産税減免の支援、またマンパワーの人的確保等、様々な形で支援していかなくてはならないと感じました。

板倉美千代

「こまじいのうち」を訪問して

「地域の底力」が発揮されている「こまじいのうち」を中心に、最近では希薄になってきた地域の助け合いも広がってきたとのこと。出入りも自由ということで、様々な世代が集まれ、交流できる場であり、子育て世代や高齢者だけでなく、最近は家に帰ると1人になってしまうからと、学校帰りの中学生も立ち寄り、高齢者から助言も受けているとのことでした。

「こまじいのうち」の運営は、都の補助金、駒込地区12町会の分担金(1町会1万円)、参加料・寄附金で賄われていて、光熱水費はねん出できるが、家賃を支払えるまでにはなっていない。貸主さんの善意だけでは、長く続けられないのではという不安を持ちました。

固定資産税の軽減や固定費の補助など、第2、第3の「こまじいのうち」が現れるための支援や、様々な世代のニーズに対応するためには、公的な施設(交流館等)も同時に整備することも必要と考えます。